

□既設床版と補強材を一体化させる確実な長寿命化効果

□超低粘度エポキシ樹脂の注入を併用した下面増厚工法

NETIS登録番号

CG-110038-VR

活用促進技術

スーパーホゼン式工法

○ どんな工法？

主に床版を下面から増厚し、エポキシ樹脂を注入して既設床版と一体化することで、劣化・損傷した構造物を確実に長寿命化する工法です

○ どんな特長がある？

- ① 橋梁の下面から施工するので、通行規制を必須としません
- ② 増厚した後にエポキシ樹脂注入が可能な工法で、既設床版のひび割れ補修も同時に行えます
- ③ 補修(長寿命化対策)、補強のどちらにも適用できます
- ④ 施工後は美観に優れ、目視点検が容易であり維持管理性に優れます
- ⑤ 2017年度 活用促進技術として評価、土木学会中部支部技術賞を2度受賞しました

○ どんな施工実例がある？

・ ひび割れの進展した橋



ひび割れが進展した橋梁の多くは、耐荷力不足が原因です。床版厚を増すことで耐荷力・せん断力が向上し、ひび割れに強い躯体となります。

・ 遊離石灰のある橋



遊離石灰のある躯体に樹脂は注入できません。樹脂導入路と増厚したモルタル自体がシール材となる本工法では樹脂注入が可能で既設部と増厚部を確実に一体化させます。

・ かぶり厚不足の橋



かぶり厚が不足する橋梁は中性化が進行すると鉄筋の腐食が始まります。本工法は増厚することで床版下面全体のかぶり厚を確保します。

・ 鋼板接着工を再補強



床版下面に接着された鋼板の内部ははがしとるまで点検ができません。接着の切れた鋼板内部に滞水した場合床版の土砂化が進んで重大な損傷となる可能性があります。

・ 炭素繊維シート工を再補強



透水性能のないシート内部は滞水しやすく、特に寒冷地ではシートの浮きが早期に拡大します。積層貼りの効果が限定的な場合など、再補強工法として本工法が活用されます。

・ 沿岸部の狭隘な構造物



沿岸部や住宅地の床版橋のなかには施工に困難な高さの構造物があります。本工法は80cm程度の高さがあれば施工が可能です。



一般社団法人 日本建設保全協会

【お問合せ先】 E-mail : info@hozen.gr.jp URL : <http://www.hozen.gr.jp/>